



笑顔とやる気いっぱいの七中 生徒自らが常に鍛え続ける七中

七中だより



第 9 号 中野区立第七中学校 《学校だより》

令和5年11月24日

合唱コンクール

音楽科

コロナ禍に覆われた4年間を経て、制限は無くなったもののインフルエンザが全くもって無遠慮に猛威を振るう中、「無理はしないで、やれることの最大限を精一杯やる」を合言葉に取り組んできた。

当日、欠席者がクラスの半数近くを占めていたり、指揮者・伴奏者が不在だったり、せっかく練習してきたものを披露する機会を逸してしまった学級があったことは誠に遺憾であった。そんな中ではあったが、発表に臨んだ生徒達は、七中生の底力を存分に発揮できたと感じた一日であった。

次年度以降がとても楽しみになるしっかりした安定感のある歌声を披露できた1年生、少ない人数となってしまうながらも上級生としての強い意志と誇りをもって楽曲を歌い上げた2年生、入退場から凛々しい姿、艶やかで透明感のある女声、張りと深みのある男声が融合し作り上げた見事な歌声の3年生、元気いっぱいの歌声と心洗われるトーンチャイムの響きを奏でたD組、七中生みんなが音楽表現を躍動的に向かっていったと言える、とても楽しく充実した時間だった。

何より素晴らしいと感じたことは、練習期間中のことだ。最初はおぼつかず、拙い歌声だったものが、練習を重ねて行く中で歌うことを楽しんでいる生徒がとても多かった。その楽曲の詞がもつ意味や思いをみんなで考え、演奏に臨もうとしていたこと、その意味や思いを感じながら音楽表現につなげることに喜びを見出そうともしていた。そして、何よりみんなで歌えることに感謝し、合唱コンクールの取組自体を楽しんでいた。

各クラスの発表を聴いて、私は、心を動かされ、脳天から爪先まで幸福感に満たされた。中学生の歌声は、間違いなく聴いている人々を幸せにする。

制限無く歌い続けられる世界が続いて行くことを心から祈りたい。



合唱コンクールを終えて

音楽科



初めに。素晴らしい合唱をありがとう。20曲の心温まる歌声を聴くことができ、とても幸せな1日でした。さて、合唱コンクールを評する2つの言葉があります。

一つは、合唱コンは「ドラマティック!!」。もう一つは合唱コンは響け!「心のハーモニー」です。今年もまさにその2つに評される合唱コンとなりました。

「合唱コンはドラマティック!!」 学級閉鎖を乗り越えて!

いくつかのクラスが学級閉鎖となってしまう、「ここからだ!」という最後の一番大切な詰めの練習ができなくなり、練習もままならぬまま本番となりました。

私は、前夜「これまで彼らの積み上げてきた努力が明日の本番ですべて報われるのだろうか」と、なかなか寝つけないほど、とても不安な心持ちでした。

本番当日、「学級閉鎖」という思わぬアクシデントにも関わらず、私の不安を吹き飛ばし、40人中20人が欠席という2年B組も含めて、七中生全員が精いっぱい気持ちを込めて元気に歌い上げてくれました。七中生の熱い想いと努力は「学級閉鎖」を乗り越え、素晴らしい合唱コンとなり、やはり、「合唱コンはドラマティック！」と実感させられた1日でした。

「合唱コンはドラマティック！」2 「指揮者、伴奏者」の隠れたひたむきの努力があつてこそ！

次のドラマティックは指揮者と伴奏者です。指揮も伴奏も花形に見えますが、最初からカッコ良く振られたり弾けるわけではないのです。誰もが初めての曲ですから、一からの練習です。彼らの夏休み前からの熱心でひたむきな練習は、横で指導している私の目から見ても一生懸命で本当に感心させられました。

そして、その甲斐あつて学級練習に入る前には指揮、伴奏、合唱がほぼ合わせられるベストに近い状態で10月からの各学級練習に臨めたのはまさにドラマティックそのものでした。指揮伴奏の皆さんよく頑張りましたね。お疲れさまでした。

「合唱コンはドラマティック！」3 + 響け！「心のハーモニー」

さて、最後に特筆したい「ドラマティック！」は合唱コンのトップバッターである1年C組です。

突然、前日にC組は課題曲を無伴奏で歌う事となりました。しかし、本番では特別の練習もないまま無伴奏で、なんと！、見事に歌いあげました。1年生で、トップバッターで、しかも無伴奏。

本番のステージ上で指揮者が最初の音を何度も出させています。なかなか最初の音が取れません。私はつい「かわいそうに」と思いました。「いつもの様には歌えないだろうなあ」と。が、歌いだしたらまさにそれは究極の「ドラマティック！」でした。一糸乱れず指揮者に合わせて歌っている彼らを見ながら「もう少し、もう少しで終わるよ……」と心で応援していました。歌い切った時には私は涙が出てきました。

なぜ、いつもと同じように歌えたのでしょうか？前奏と間奏2回分は彼ら一人一人の頭の中で、それまでの伴奏者の演奏が記憶として音楽をつなぎ、全員が合唱として音楽（Tempo, 音程）を崩すことなく歌いあげたのです。これは正に称賛すべきドラマティックな演奏でした。（もちろん指揮者あつてこそですが。）

当日のステージには、残念ながら伴奏者の姿は存在しませんでした。彼らの頭の中には今まで献身的にC組をほかの仲間と協力し、支えてきた伴奏者がしっかりと音としてC組全員の心に存在していたのです。

「ドラマティック！」 & 響け！「心のハーモニー」をC組は正に奏でていたのです。

私自身、長いことコンクールに参加したり、数多くの合唱コンを経験してきましたが、今回のようなケースは初めてで、伴奏のある曲を突然無伴奏で「音楽（Tempo, 音程）を崩すことなく歌いあげられた」という事実は心から称賛したい。1年生ながらC組は日頃からの練習がしっかり実った素晴らしい演奏でした。

今年も、各学級で様々な「ドラマ」が組み立てられ、「心のハーモニー」が心に響いていたのだと思います。合唱コンクールは実行委員の計画、立案、実行に支えられ、歌い手、指揮、伴奏者、各パーティーリーダーの「心のハーモニー」が鳴り響いて、初めて音として耳に届く素晴らしい行事です。今年度の「心のハーモニー」で各自の心にともった灯が、さらに来年度は1つの大きな燈となってくれることを願っています。



行事の中にある日常の大切さ

文化的行事委員会
実行委員長

私が合唱コンクールに向けて準備を始めたのは5月。昨年度はなかのZEROホールで3年ぶりの開催となり、今年度は加えて、練習や会場に大きな制限がない合唱コンクールになるだろうということで、とても楽しみにしていた。各学年の「らしさ」が溢れる合唱を昨年度なかのZEROホールで間近に見て、心が震えるという体験をしたことを今でも覚えている。今年の生徒たちにも、私が経験した合唱の良さを経験してほしい、味わってほしいという思いが強くあった。実行委員の生徒を通して、七中生にこの合唱コンクールという行事を通して何を学んでほしいか、人としての成長をしてほしいのかを考え、準備を進めてきた。

実行委員の生徒は、合唱コンクールを自分たちの手で成功させたいという思いを強くもっていた。今年度作り上げる合唱コンクールが、これからの七中のベースとなることを理解し、クラスの練習計画を担う者として、先の予定や計画を見通して行動していた。そしてクラス全体・学年全体・学校全体のことを見て、自らすすんで行動していた。どのクラスにおいても、実行委員の二人が前に立って、クラスをまとめていた。インフルエンザが猛威を振るい、学級閉鎖せざるを得ないクラスがあるほど欠席者が増えた中でも、実行委員たちはクラスを励まし、声をかけ続けた。彼らの頑張り無くして、この行事の成功はなかった。

昼休みや放課後の音楽室は、常に誰かがピアノを弾いていた。教室を覗いてみると、伴奏者に合わせ指揮を振る指揮者の姿があった。夏休みから自分の時間を割いて懸命に練習を続けた伴奏者と指揮者は、合唱コンクールにおける各クラスの合唱を支える存在であった。また、合唱コンクールに向けての練習で声をかけるのは実行委員だけではなかった。各クラスのパートリーダーがパートの練習を仕切り、ボランティアで機材を運ぶ人が各クラスにいて、全員が自分の役割に誠実に、そして真剣に取り組む様子を見て、七中生全員の協力があったからこそ、この行事が成功へと向かっているという実感があった。



当日、なかのZEROホールでの合唱から各学年の生徒が得られたものは、計り知れないものだったと思う。特に最上級生が示した行事へのひたむきな姿勢は、私自身も感銘を受けた。しかしその感銘は、何も当日の様子だけから得られるものではない。ここに至るまでに経た日常における、最上級生としての良さが積み重なり、合唱という形で体現されているのだ。



七中生の多くは、この合唱コンクールを通して歌うことがさらに好きになったと思う。では合唱以外の学校生活で七中生に何か変化はあっただろうか。合唱コンクールを終えた今こそ、七中生の生活に目を向けたい。行事が行事だけで終わるのではなく、学び得たことがどれ

だけ日常生活に還元されているだろう。なかのZEROホールで感じた一人ひとりの憧れが、その場限りでなく、自分やクラス、そして七中をより良くしていこうとする力に変わってほしいと思う。行事の中に、そして行事を終えた先にも続く日常生活を大切に、これからも頑張れ七中生！素晴らしい合唱をありがとう！

敢闘賞	D組
金賞	1年B組
	2年A組
	3年B組
指揮者賞	
	1年
	2年
	3年

(敬称略)



生徒の活躍

中野区立中学校 連合文化発表会

11月3日(木)の文化の日になかのZEROホールを会場に、中野区立中学校の生徒が集い、4部門(音楽・演劇、理科、英語)での発表会が開催されました。

音楽・演劇の部では、吹奏楽部が大ホールで「君の瞳に恋している」「千と千尋の神隠しメドレー」を演奏し、会場を盛り上げていました。

そして、理科の部として開催された「中野区生徒理科研究発表会」では、夏休みの自由研究での観察に基づいた生息地による気孔の特徴について堂々と分かりやすく発表した結果、教育長賞に選出されました。おめでとうございます。

理科の部 生徒理科研究発表会 教育長賞 2年 さん
 「身近な植物の葉のつくりの比較 ～観察で明らかにできた気孔の奥深さ～」



地域活動への参加

ボランティア活動は貢献活動だけではなく、地域の活性化や自ら主体的に地域に関わることも含まれます。自らの活動の振り返りとして「地域活動記録簿」に記録を残していきましょう。

《「ハロウィンラリー」の手伝い》

ボランティア部が依頼を受け、10月29日(日)に江古田の杜周辺で実施された「ハロウィンラリー」に参加してきました。実際に仮装をしての手伝いで、最初は戸惑いながらでしたが、様々な人々と接しているうちに自信をもち、自ら声をかけて手伝う姿がありました。



《初期消火機器操法大会》

震災や火災が起きたときには、中高生の力が必要になります。そこで、地域防災力向上を目的とした「初期消火機器操法大会」が、11月4日(土)に開催されました。男子バスケットボール部の2年生が『バケツリレー消火』に参加し、準優秀賞を受賞しました。

